

学校教育目標：心やさしく 進んで学び たくましく生きる子どもの育成

前号で、「読書週間」について書きました。読書の際に手にするもの、それは書物、『本』です。

「本」という字は、「物事の基本」という意味から転じて、書物を表すようになったそうです。そうして考えると、大事な言葉には「本」という字が使われることが多いようです。

詩人の相田みつをさんの言葉にも「本の字のつくものはいい 本の字でいこう いつでもどこでも 何をやるにも」というものがありました。

「本気」・「根本」・「本当」・「本物」・「本心」・「本音」・「本番」・「本腰」・「本質」・「本性」「本領」・「本筋」
「本意」・「本分」・「本望」・「本来」・「本人」

・・・など、確かに大事な、重要な意味を含むものが多いように思います。私達が住む、この「日本」にも「本」がついていますね。

後期が始まり10日が過ぎようとしています。今年度後半も、子ども達一人ひとりを大切に、伸ばし、輝かせるために、教育の「根本」や「本質」を捉え、「本腰」を入れ、「本気」になって、教師としての「本領」を発揮し、日々の教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。



『家読（うちどく）』 やってみませんか？

『家読（うちどく）』という言葉をご存知でしょうか？ 各地の自治体等でも、広く取り組まれ、家庭への働きかけも行なわれていますので、ご存知の方も多いと思います。（佐世保市でも「家読10分間運動」を推進しています。）

「家読（うちどく）」とは、「家庭読書」の略で、家族で読書の習慣を共有することです。

家族で本を読んでコミュニケーションし、「家族の絆づくり」をすることを目的としています。

基本は、家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話したりすること。

ただし「家読（うちどく）」に決まりはありません。どんなやり方でもOK。難しいルールはいりません。

- ・家族で同じ本を読む。
- ・家読の日、時間を決めてみんなで読む。
- ・読んだ本の感想をみんなで話し合う。
- ・自分のおすすめの本を教えてあげる。
- ・家族に本を読んであげる・・・などなど

家族で本を楽しむことが出来れば、それが「家読」です。

それぞれのご家庭にあった家読スタイルを
つくってみてはいかがでしょうか？

同じ本をみんなで読めば、家族の会話もいっそうはります。

家読で、読みニケーションはじめましょう！

子ども達は、学校で楽しそうに読書に親しんでいます。ご家庭でも、親子読書、「家読」に積極的に取り組んでいただくと、読書への関心がより一層深まり、習慣化、定着化します。

本は学校でも、町の図書館でも、借りることが出来ます（移動図書館車もありますね。）。書店にもあります。また、最近は、自宅のパソコンやスマホからインターネットで好きな時に、好きな本を気軽かつ簡単に購入することも出来ますので、大きな書店のない離島である宇久島であっても、本はより身近なものになっています。

家族の温かさや優しさ、愛情を感じ、親子、家族の絆が深まるひと時にもなります。ぜひ取り組まれてみてはいかがでしょうか？

